

出演団体紹介

みず さわ ぼん おど たい こ 水沢盆踊り太鼓（八幡平地区／市指定無形民俗文化財）

明治期に盆踊り行事として安代（現岩手県八幡平市）～二戸～三戸郡から伝わったとされ、毎年8月14日に地区の盆踊りで行われている。

演目は「大の坂」「甚句」「二つ甚句」「三戸」「よされ」の5曲がある。最大の特徴は、『舞打太鼓』といわれる演奏法で、一人で太鼓を担ぎ踊りながら叩き、「二つ甚句」「三戸」「よされ」は太鼓の縁も叩いて演奏する。鹿角の他地域の太太鼓の演目では見られない演奏である。

はな わ まつり や たい ぎょう じ 花輪祭の屋台行事（花輪地区／ユネスコ無形文化遺産・国指定無形民俗文化財）

花輪地区にある幸稻荷神社と花輪神明社の合同の祭礼において奉納される祭礼囃子で、8月19日・20日の2日間、10町内から出される屋台が巡行し囃子を奉納する。伝承されている曲は13曲あり、屋台が巡行する際には「本囃子」を演奏し、稲村橋などでは得意の囃子を演奏する。屋台は「腰抜け屋台」と呼ばれる底板のない屋台で演奏しながら動けるように足回りは簡素な造りになっている。囃子は笛・太鼓・三味線・鉦により演奏する。

平成28年に「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録される。

け ま ない ぼん おどり 毛馬内の盆踊（十和田地区／ユネスコ無形文化遺産・国指定無形民俗文化財）

毛馬内地区のこもせ通りで8月21日から23日の3日間、篝火をたき、その周りを細長い輪となり情緒豊かで優雅に踊る。踊り手の衣装は、着物の裾をはしより、女性は鴉色、男性は水色の蹴出しをつけ、男女とも豆絞りの手拭で口元を隠し、あごの下で結ぶ独特の頬被りをする。紋付か留袖の正装のため「箆笥の底」を着て踊るものといわれる。大太鼓と笛の囃子にあわせて踊る「大の坂踊り」と歌にあわせて踊る「甚句踊り」が伝承されている。

令和4年に「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録される。

だい の ぼん がく 代野番楽（秋田県大館市／市指定無形民俗文化財）

代野番楽は毎年元旦に五穀豊穰、悪疫退散を祈願し代野稲荷神社で行われている番楽で、江戸時代に始まったとされるが、明確な資料がなく一人の旅芸人（または僧）がこの村に立ち寄った際に伝授されたものとも伝えられている。

番楽は武士舞と狂言舞に分かれるとされ、太鼓、横笛、拍子木、鉦の囃子に合わせ演じ、演目は「一人武士」「金巻」「扇舞」などがあり、武士が獅子を退治する「金巻」では、飛び跳ねたり刀を振りかざしたりして迫力のある舞である。

特別出演

お が だい こ 男鹿なまはげ太鼓（秋田県男鹿市）

男鹿なまはげ太鼓は、ユネスコ無形文化遺産にも登録された国指定重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」と日本古来の「和太鼓」を融合させた古くて新しい男鹿独自の郷土芸能である。

1970年代、男鹿温泉郷の宴会などで定番だった「なまはげ踊り」の演者に依頼し、なまはげと和太鼓の演奏を組み合わせた新たな芸能を考案したのが起源とされる。

現在は、男鹿温泉交流会館五風での定期公演のほか各地でも精力的に公演を行っている。